

バス停ナンバリング等とオープンデータのリンクに係る 実施方針案

- ◆ 検討の趣旨はインバウンドを含む観光客等への案内のわかりやすさの向上
 - ⇒バス停名ではなく、ナンバリング（英数字）で乗車バス停や降車バス停を確認、案内できるようにする
 - ⇒そのため、付与したナンバリングが、バス停、車内表示、各種配布物等の案内、ルート検索結果と連動することが重要となる
- ◆ 国交省のガイドラインにおいても、バス停等のナンバリング・カラーリングとオープンデータのリンクに係る記載はない（バス停ナンバリングの事例はあるが、検索結果（オープンデータ）と連動した例はない）。

▼バス停ナンバリングの他県の事例（京成バス）

⇒バス停ナンバリングと路線図がリンクした例はあるが、検索結果とリンクした事例は現状はない

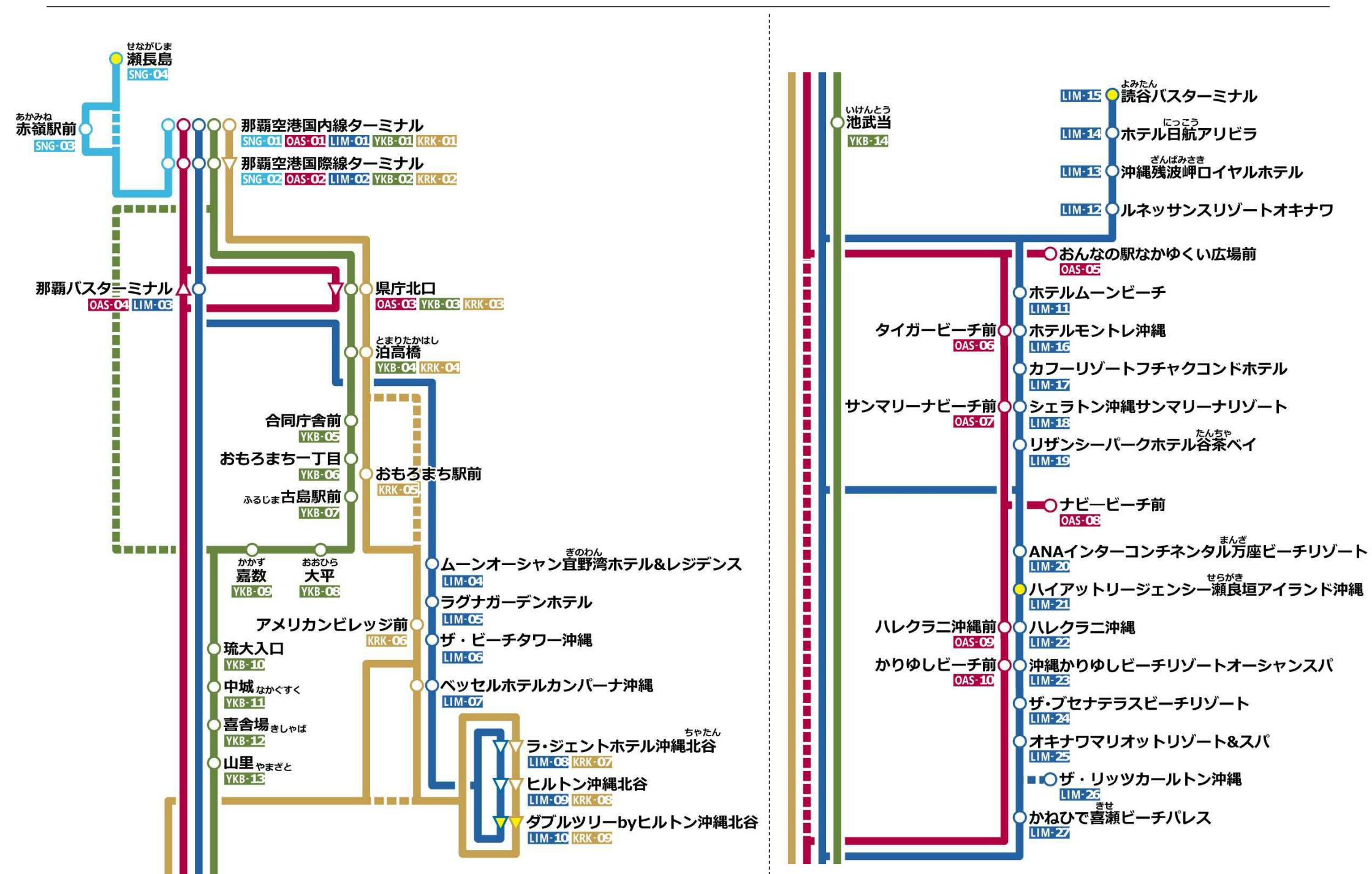


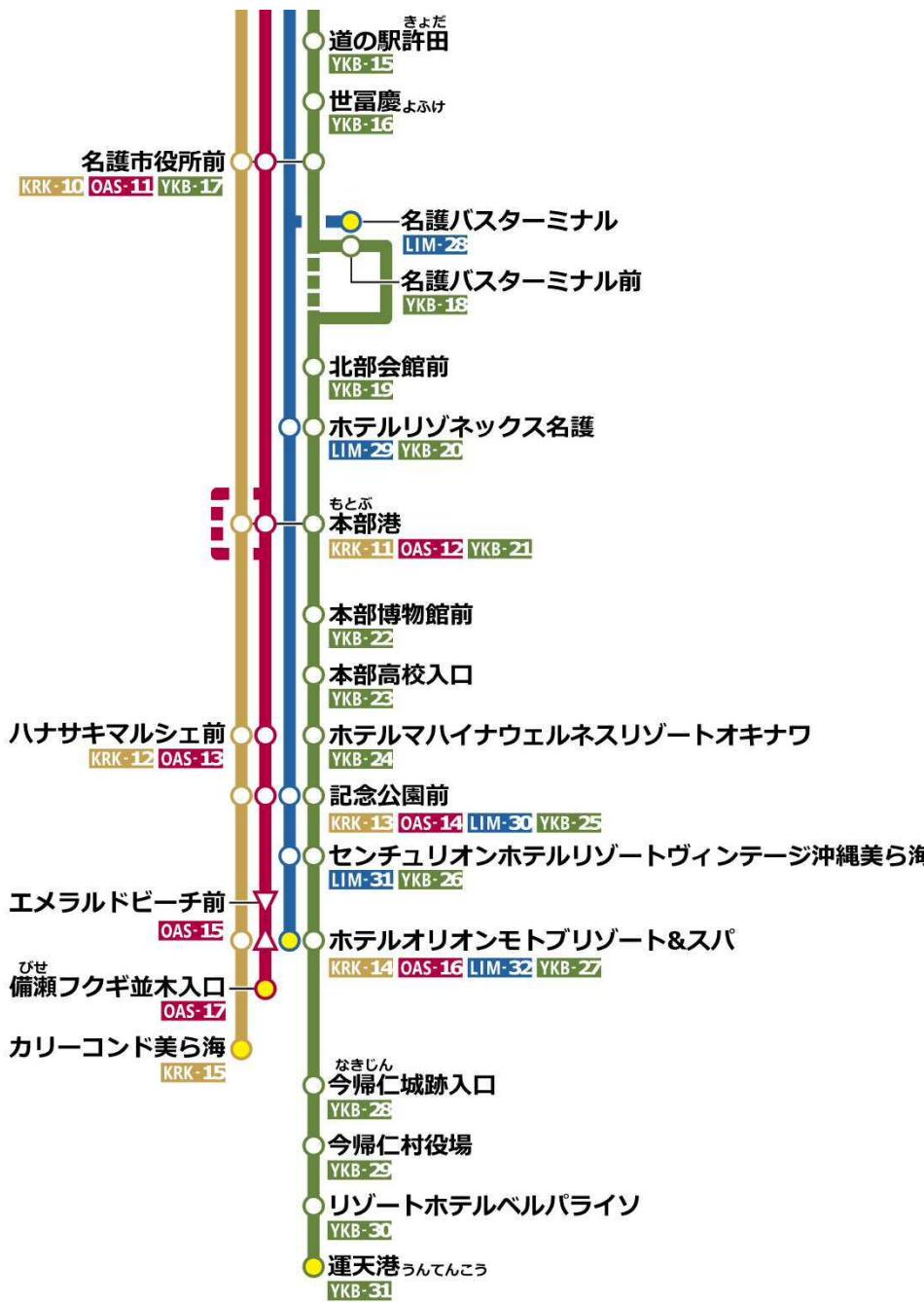
▼駅ナンバリング（東京メトロ）と検索結果のリンク事例（乗換案内NEXT）

⇒一部の乗換案内では、東京メトロの駅ナンバリングに対応
([Google乗換案内は現時点で未対応](#))



2. 県内におけるバス停ナンバリングの案 (リムジンバス、エアポートシャトル、やんばる急行、カリー観光、中部観光を事例に)





- ◆ バス停ナンバリングに対応する場合、GTFSデータ上で、バス停のナンバーを「Stop name」のフィールドに入力するのではなく、「Stop code」のフィールドへの入力を想定。
→現状では、検索サービス側がバス停ナンバリングに対応していないため、検索サービス側との調整が必要となる（例えば、現状GoogleMapsでは限定的に表示することはでき、PCで検索した場合、番号を確認することができる。スマホで検索した場合、番号は表示されない。等）

(検索結果表示のイメージ)

